

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4099900021
法人名	社会福祉法人 慈光会
事業所名	グループホーム 幸
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡大任町大字今任原3401-116 (電話) 0947-63-4150

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年9月7日	評価確定日	平成21年10月22日

【情報提供票より】(平成21年8月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤	4人, 非常勤 8人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル造り 2階建ての1階～2階部分
------	--------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000円	その他の経費(月額)	(光熱費)5,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月10日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	1名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	72歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	慈光医院 / 丸の内歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム幸は、昨年同系列である社会福祉法人に運営が統合化され、新たなスタートとなっている。職員の人員配置も新たな体制となっており、隣接する同法人施設との連携を充実させ、ケアやサービス強化を目標に安心・安全面の充実と共に、これまでの機能を更に高めるように取り組んでいる。管理者は、その時の入居者の思いや訴えを最優先におき、業務への支障があれば、勤務ローテーションにより解決を図るなど、職員と共に状況に応じた柔軟なケア体制を築こうと日々努力している。開設者の意向でもある低料金を継続維持しており、管理者・職員が新たな体制の中、職員の研修の充実などにより、更に質の高いケアやサービスの確立が期待できるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	現法人としての初めての外部評価となる。前回(前法人)評価の改善課題については把握している。自己評価作成にあたり、地域密着型サービスの意義をあらためて確認する機会となっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の作成に一つ一つ取り組んでいく中で、日々のケアの確認と振り返りの機会となっている。評価結果を今後の取り組みにつなげていきたいと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は新たな体制の中、定期的な開催が課題となっている。実りのある会議にしたいと開催方法を模索中である。また、運営推進会議を家族の意見や意向を把握する機会として、また地域や行政との関係づくりの場として活かしていくことが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	苦情箱を設置している。家族の面会が多く、その際に家族の意向を把握するように努めている。今後は、意見や苦情に迅速に対応する体制づくりに取り組む予定となっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	新たな体制により、地域との連携は今後の課題となっている。大任町が「花の街づくり」に取り組んでおり、新たな物産館建設に伴い、その道路沿いに花壇づくりが計画されている。今後、入居者と職員で花壇づくりに協力したいと考えている。また、入居者の重度化に伴ない、ホーム行事の充実や職員の地域活動への協力なども視野にいれて検討していきたいと考えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「ここがあなたの幸でありつづける家」という基本理念を掲げている。わかりやすい言葉の中に深い思いが込められており、職員への浸透を図っている。昨年、地域との関係について話し合いを重ねており、その具体的な内容を理念の中にわかりやすく示していくことが望まれる。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	ホーム内の目に付きやすい場所に理念を掲示している。管理者は日々職員に、理念の深い意味を考えながら日々のケアに取り組んで欲しいと伝えている。理念を念頭に「どのような介護をしていきたいか、どういう介護が幸せにつながるのか」などを考えながら、入居者一人ひとりが気兼ねなく生活ができるように取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	大任町が「花の街づくり」に取り組んでおり、新たな物産館建設に伴い、その道路沿いに花壇づくりが計画されている。今後、入居者と職員で花壇づくりに協力したいと考えている。また、ホーム行事の充実により交流の機会を増やし、職員の地域活動への協力なども視野にいれて検討していきたいと考えている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	現法人としては、初めての外部評価となり、新たな気持ちで取り組んでいる。管理者を中心として全職員で検討し自己評価を作成することで、地域密着型サービスとしての理解が深まっている。評価結果を基に今後のホームのあり方を再検討したいと考えている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は新たな体制の中、定期的な開催が課題となっている。実りのある会議にしたいと開催方法を模索中である。		運営推進会議が定期的に行われていない状況である。今後は関係者との調整により、定期的に行われていくことが求められる。また、運営推進会議を家族の意見や意向を把握する機会として、また地域や行政との関係づくりの場として活かしていくことが期待される。
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム 幸

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	大任町では、グループホームの交流会を開催し、情報交換などをすすめている段階である。今後の連携に期待を持ち、相互訪問や勉強会などに積極的に参加していきたいと考えている。大任町主催の敬老会の案内もあり、担当者とは相談できる関係を築いている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者は、研修参加により権利擁護に関する制度の理解はあるが、職員には浸透していないため、権利擁護に関する資料などを整備し、理解を高めていくことが求められる。		日常生活自立支援事業や成年後見制度について、現在活用している入居者の方はいないが、必要となった場合に支援できるよう、体制づくりが求められる。また家族や地域への情報発信にも期待したい。
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	入居者がホーム近郊の方が多く、面会が多いため、その都度、入居者の近況を報告している。今後、職員の異動や退職等も報告していきたいと考えている。ホーム便りの作成についても検討中である。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	苦情箱を設置している。家族の面会が多く、その際に家族の意向を把握するように努めている。今後は、意見や苦情に迅速に対応する体制づくりに取り組む予定となっている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	昨年法人の変更があった際に、退職者と新規採用者が重複して勤務する期間を3ヶ月間設けている。入居者のダメージが最小限となるよう可能な限り時間をかけて取り組んでいる。また働きやすい環境づくりに努めている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	採用にあたっては、年齢・性別・経験等ではなく、高齢者が好きで笑顔で接することができる人を重視している。職員の働きやすい環境づくりに取り組み、十分な休息の確保とストレス解消など、職員の負担軽減を図るよう努めている。今後は、研修の充実により職員の自己実現に取り組んでいきたいと考えている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム 幸

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者の人権に対して、スタッフミーティング等で話し合い、意識を高めている。人権に関しては、今後は行政関係の外部研修などの情報を収集するなど、研修の機会を確保していくことにも期待したい。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	平成20年度は法人としての新たなスタートの年であったため、職員研修は課題となっている。職員のスキルアップを高めるため、同法人内の研修参加などの充実はもとより、職員の希望に応じた研修受講や資格取得のバックアップに取り組むたいと考えている。今後の取り組みに期待したい。		行政や関係機関などの研修情報を収集し、職員が働きながら学べる環境づくりに期待したい。グループホーム協議会の活用や同法人内の連携等も期待したい。また研修実施の際には、研修記録や共有についての書類整備が求められる。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	大任町が中心となり、グループホームの交流会が定期的に開催されるようになった。今後も積極的に参加し、情報交換をはじめとして、サービスの向上につなげていきたいと考えている。勉強会の開催等、実践的な取り組みにも期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	本人や家族から、入居者の思いや訴えを引き出し対応を検討しながら、職員とのなじみの関係に配慮し、納得して入居できるように支援している。これまでの人間関係が継続できるように、なじみの方との外出や連絡を支援し、生活してきた場所を外出時にコースに取り入れるなど、暮らしの習慣を尊重し取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者の方々と共に、畑づくりや花壇づくりに取り組み、教えてもらうことも多い。収穫した野菜類は漬物づくりや食事の際の材料など、入居者と職員と一緒に作業に取り組み、暮らしを楽しむよう取り組んでいる。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム 幸

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	日々の暮らしの中で、入居者との何気ない会話を大切にしながら、思いや希望の把握に努めている。		本人・家族・関係者の協力により、生活暦や趣味、これまでの暮らしの習慣などを把握し、共有できるよう取り組んで欲しい。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族・関係者と話し合い介護計画を作成している。介護計画には、健康・疾病管理と共に、入居者の生きがいある暮らしを目指したケアやサービスの内容が掲げられ、わかりやすい内容となっている。今後は、アセスメントの充実により、入居者の思いや意向を掘り下げると共に、これまでの入居者の暮らしの習慣などを介護計画に反映していくことが期待される。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	モニタリングから課題を抽出し、定期的に見直しを行っている。心身の状況に変化があった場合には、その都度見直しを行っている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	隣接する施設の法人との統合化により、看護師など専門スタッフのサポートがあり、健康面などの管理体制が安心である。また、敬老会・もちつき大会など合同の企画もあり、入居者の楽しみとなっている。今後は合同の研修会を行なうなど、法人のメリットを活かして研修の充実を図る計画である。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居者や家族の意向にそって、希望するかかりつけ医に受診できるように支援している。週1回、訪問看護を利用し、日々の健康管理を行っている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム 幸

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	「重度化及び看取りが生じた場合の指針・同意書」があり、家族に説明している。看取りの経験はないが、今後さらに家族や職員、医療関係者との話し合いを行う方針である。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	日常的に、言葉使いや対応について注意し、振り返るようにしている。認知症についての理解を深め、尊厳を大切にしたケアに努めている。入居者の記録や個人情報、事務所に保管・管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	管理者・職員は1日の業務の流れにとらわれず、その日、その時の入居者の状況に応じて対応していくことを、ホームの方針としている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事は隣接する施設で作られ、盛り付けはホームで行っている。たこ焼きやおやつ作り、畑で収穫された野菜の調理等、手作りを楽しむことを支援している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	週3日の入浴を基本に取り組んでおり、入浴の順番も入居者同士で自然に決まっている。入浴はゆっくりとくつろいでいただけるように支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム 幸

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	これまでの暮らしの楽しみとして、野菜づくり・花づくり・編み物などの趣味が活かせるように支援している。生活歴の見直し等で、新たな発見や入居者の意欲を引き出す取り組みに期待したい。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	法人のワゴン車を活用し、季節ごとの風景を楽しむためのドライブなど積極的に取り組んでいる。また、職員と共に個別での買物や地域の催し物見物などに出掛けている。また、玄関前のオープンスペースの柵と門などを工夫し、開放感溢れるゆとりの空間を演出し、日常的にティータイムなどを楽しめるように取り組んでいる。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は管理者や職員の目配り・気配りなどにより、鍵をかけないケアを実践している。帰宅願望などがある場合は、管理者・職員は共に外に出るなど寄りそうケアに取り組んでいる。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	運営推進会議にて災害時の避難経路や方法を検討し、避難訓練の協力も働きかけている。今後、消防署との連携により避難訓練を実施し、記録を整備していくことが求められる。		消防署との連携による避難訓練の実施が課題となっている。現在計画書を提出しており、早急な取り組みが求められる。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	法人の管理栄養士により、バランス等に配慮された献立が作成され、食事量・水分量の摂取確認を行っている。水分チェック表では、細かく時間帯で摂取量がわかるように工夫している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム 幸

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間には、貼り絵や行事での写真が飾られている。また入居者一人ひとりの「写真集」が作成されており、来訪者は日々の暮らしの様子を垣間見ることができる。ダイニングのそばにソファが並べられ、いつでも入居者がゆったりと過ごせる空間の工夫がある。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	入居者の希望にあわせた部屋づくりに努めている。嫁入り道具であった鏡台、使い慣れた机・筆筒等が持ち込まれており、その人らしい部屋づくりが行なわれている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			